

中国包囲網のための米軍・自衛隊基地強化—日米軍事一体化反対！
アジア民衆と連帯し、日米軍事同盟の強化と闘おう！

岩国から東アジアの平和をつくりだす 2021 岩国国際連帯集会 基調

●コロナ禍でも機能強化がつづく岩国基地

神奈川厚木基地からの空母艦載機移転が完了して 3 年半が経過した在日米軍岩国基地。その間、岩国基地では 6 名の米兵が死亡した所属米軍機の墜落事故など、事故が相次ぎ、倍増した戦闘機による爆音被害は途切れる時がありません。岩国米軍機の爆音被害や低空飛行は周辺地域をも苦しめています。それどころか米軍が訓練に適した場所だと考えれば、全国どこでも低空飛行が行われ、その実態は秘密のままです。

艦載機移転完了によって戦闘機数で**東アジア最大級**の航空基地となった岩国基地ですが、さらに最新鋭ステルス戦闘機 F35B は当初の 16 機に加え、さらに 16 機の追加配備が進められています。9 月には「ヘリ空母」といわれる海上自衛隊の「いずも」が岩国基地に接岸し**米軍岩国基地**の F35B を搭載して発着艦検証を行い、さらなる空母化が進んでいます。岩国の F35B は、同月に萩・石見空港に「燃料低下による予防的着陸」という名目で緊急着陸しています。事前連絡はなかったも同然で、空港では大混乱が生じました。さらに「遠征洋上基地」と呼ばれる米海軍の大型艦船ミゲルキースが対中国の訓練中に岩国基地に初寄港しました。また昨年には米軍の戦略爆撃機 B-1B が岩国に飛来し、今年 3 月には米空軍のステルス戦闘機 F-22 ラプター-6 機が飛来して 1 ヶ月も岩国で訓練を展開しました。岩国基地をめぐる動きは慌ただしくなる一方です。**さらに、11 月 18 日には、岩国の F35B が搭載される佐世保の強襲揚陸艦アメリカが、市民の反対を無視して岩国基地に初寄港しました。**

他方、岩国米軍基地内のコロナ感染も止らず、すでに感染者は 246 名（11 月 1 日現在）を数え、人口比で見れば、岩国基地内での感染者数は他の地域の感染者数の 5 倍に達しています。米軍にとって関心があるのは自身の計画だけであり、米軍関係者 1 万人が住む岩国には、住民の命より軍の都合が優先される基地の街の矛盾が凝縮しています。

●中国包囲網の形成—強化される日米軍事同盟下の岩国基地

4 月 16 日の日米首脳会談でバイデン米大統領と当時の菅政権は、台湾海峡問題をことさらに強調し、中国包囲網作りのための日米軍事同盟の強化を謳い上げました。そのもとで日米合同軍事演習、米・英・豪・蘭・独との共同訓練など多国間の軍事演習が恒常的に行われています。またそれらと連動して 9 月～11 月下旬まで実施されている陸自大演習は、琉球弧で進む自衛隊のミサイル部隊、監視部隊の配備にあわせて、対中国包囲網の実践的訓練として強行されました。

このような中で、岩国基地はハブ基地（中軸基地）として、全国や米本土から軍事訓練や実際の軍事行動のために移動する米兵や米軍機を受け入れ・補給・整備して送り出しています。岩国基地には、この間の拡張で新たに長さ 360 メートル・水深 13 メートルの岸壁が出来ましたが、そのような軍港と 2440 メートル滑走路を合わせ持つ、米軍にとって極めて「使い勝手のよい」基地なのです。岩国基地が、米軍再編—艦載機移転によって海兵隊基地であると同時に海軍基地となり、さらに**空軍機、陸軍機も飛来し、訓練さえ行っています。岩国基地がこのように強化**されていることについて、地元の市民運動は強く警戒し、批判しています。このような基地の拡張と機能強化を、「基地との共存」というスローガンで際限なく容認する福田市政の犯罪性は明らかです。

この一年の間に安倍政権が退陣し、それを継承した菅政権、そして岸田政権が成立しまし

た。先日の衆院選では、接戦を展開したにもかかわらず小選挙区制のもとで自民の絶対安定多数の確保に結果し、自公政権への批判票の一部が維新の会に流れ、改憲勢力が3分の2を確保するという極めて危険な状況へと至っています。野党共闘の後退も懸念されます。岸田首相が早々に表明した敵基地攻撃能力保持、軍事費GDP比2%枠引き上げという目標や、改憲への意欲の表明などを見れば、日米軍事同盟と日米の軍事一体化のもとで戦争国家づくりはますます進むと思われます。私たちは、闘う岩国市民とともに改憲を阻止し、岸田政権打倒のために闘います。

●終わらない朝鮮戦争と岩国基地

岩国米軍基地は1950年朝鮮戦争を通じて大きく拡張され、朝鮮半島爆撃の拠点となりました。岩国基地ホームページには「(同年)6月、米空軍第3爆撃航空団(B-26)が岩国基地から北朝鮮に対する戦闘活動を開始。」と記録していますが、朝鮮半島にもっとも近い出撃基地である岩国に朝鮮戦争の開始とともに配備された同部隊は、最後まで朝鮮半島での爆撃任務を継続しました。戦争の継続とともに、米軍爆撃機は朝鮮半島北部の都市そのものを爆撃することを目標にした焦土化作戦を遂行します。朝に作戦に出た米軍爆撃機は帰り道に残った爆弾、焼夷弾の束や時限爆弾を無造作に町や村の上に落として使い切って帰還します。米爆撃機による連日の空爆は朝鮮民衆への無差別大量虐殺であり、朝鮮半島北部の都市の90%が地上から消えたほどの被害を与えました。

朝鮮戦争の勃発から70年の2020岩国行動で、私たちは在日団体からの特別報告を受け、朝鮮半島の平和のために行動することを誓いました。朝鮮戦争はいまだに終わらないまま、再来年には休戦70年がめぐってきます。朝鮮戦争を終わらせないまま朝鮮半島とアジアに駐屯している米軍と米韓合同軍事演習が、今も朝鮮半島とアジアの平和構築を妨害し続けていることは、この間の朝鮮戦争終戦宣言をめぐる南北の情勢からも明らかです。そして日本の朝鮮半島への植民地支配に対して謝罪も賠償もされていないことが、日米軍事一体化のもとでの新しい戦争の脅威につながっています。朝鮮半島平和を妨害したり、米中対立の激化と台湾有事をあおる動きを、私たちは決して許してはなりません。

●全国の米軍基地・自衛隊基地と闘う仲間と連帯して岩国行動を闘おう！ 韓国ソソン里やフィリピン民衆とともに反基地闘争の国際連帯を強めよう！

今年の岩国行動では、岩国基地の最新の状況を知るとともに、岩国基地と連動して強化される佐世保基地や、沖縄・辺野古、京丹後、自衛隊配備が強化される宮古からの報告を受けます。

また米軍サード配備と体を張って闘い続ける韓国ソソン里からの連帯メッセージや、米軍再駐留の固定化と闘うフィリピン民衆を代表して滞日フィリピン人団体からの連帯発言を受けます。韓国で進められるサード性能改良の目的の一つは、日本のXバンドレーダーとサードレーダーの統合運用をさらに強化することにあります。朝鮮民主主義人民共和国や中国を対象とした米比合同軍事演習や米韓合同軍事演習には、継続的に自衛隊が参加していますが、20年に及んだ米軍のアフガニスタン侵略・占領が破たんしたように、軍隊が平和を作り出すことはできません。アジア民衆との共同行動が一層必要となっています。また米軍の持つ特権と入管問題や外国人労働者問題、さらに基地と女性・性的マイノリティーが受けてきた被害など、基地撤去の闘いの内容を豊富化していかなくてはなりません。

明日は、岩国住民が米軍住宅建設に反対して10年以上続けてきた愛宕山見守りの集いへの参加、基地フィールドワーク、岩国米軍基地正門に向かうデモなどに全力で取り組みましょう！ 岩国から東アジアの平和を作り出すためにともに奮闘しましょう！